

## 趣旨

11月19日は2013年の国連総会において定められた「世界トイレの日」です。世界には衛生的なトイレにアクセスできない人が約25億人もおり、不衛生な生活環境が原因で毎年多くの子どもたちが命を落としています。

一方で、日本においても災害時のトイレ機能の確保は、命と尊厳にかかわる重要な課題となっています。そんな中、東日本大震災において、東松島市の避難所に整備されていたマンホールトイレが発災後の比較的早い段階から使用され、悪臭もなく好評であったと報告されています。

そこで、本シンポジウムでは、被災時においても快適で衛生的な生活環境を守るにはどのようなトイレ環境が必要かを、医療現場や避難所現場から学びます。また、女性視点による“使いたいと思うマンホールトイレ”を具体化するため『マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン(案)』を発表すると同時に、私立目黒星美学園中学高等学校（東京）の女子生徒とのコラボレーションで「マンホールトイレの望ましい空間」を提案します。これら実践的取り組みをとおして、マンホールトイレの改善と普及を推進し、災害時のトイレ環境の向上を目指します。



東松島市のマンホールトイレ（写真左：トイレ外観と送水ポンプ、写真右：トイレ内部）

## 開催概要

日時	2015年11月19日（木） 13:00～16:40
会場	日本科学未来館 7F “未来館ホール” 〒135-0064 東京都江東区青海2丁目3番地6号
主催	国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部
事務局	特定非営利活動法人 日本トイレ研究所
参加費	無料
申込先	特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 “シンポジウム事務局” FAX: 03-6809-1412 E-mail: web_ml@toilet.or.jp

## プログラム

12:00 受付開始

13:00 主催者あいさつ

塩路 勝久（国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部長）

13:10

**報告** 東日本大震災で実証されたマンホールトイレ ～被災経験から学ぶ～

小田島 毅（東松島市 建設部 下水道課長）

東松島市の避難所2か所で、発災翌日から住民主導でマンホールトイレが設置・運用され、多くの被災者に臭気の問題もなく使用してもらうことができました。このような取り組みが実現できた理由と、今後の改善策について紹介します。

13:50

**提案** 女子視点でのマンホールトイレの提案 ～使いたいと思えるトイレ～

京 百合子（目黒星美学園中学高等学校 教諭）

竹田 由実（国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部）

トイレが嫌だと多くの人は水や食事を控えてしまいます。「避難所だからこのぐらいでしょうがない」という考え方では、改善はすすみません。ここでは、女子視点を活かして、誰もが安心して使えるマンホールトイレ空間を提案します。

14:30

休憩①（10分）

14:40

**講演** 災害現場に求められる大切なこと ～トイレはライフライン～

秋富 慎司（防衛医科大学校 救急部 講師）

災害時のトイレ機能の確保は、命にかかわります。不衛生な環境下では、食事も医療も成り立たないのが現状です。東日本大震災の経験を踏まえ、災害現場に必要なチームやマニュアルづくり、支援システムづくりについて解説します。

15:30

休憩②（10分）

15:40

**パネルディスカッション** 災害時にも安心できるマンホールトイレの普及に向けて

発表 「マンホールトイレ整備・運用のためのガイドライン(案)」

（国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部）

パネリスト 秋富 慎司（防衛医科大学校 救急部 講師）

小田島 毅（東松島市 建設部 下水道課長）

京 百合子（目黒星美学園中学高等学校 教諭）

茨木 誠、竹田 由実（国土交通省 水管理・国土保全局 下水道部）

進行 加藤 篤（特定非営利活動法人日本トイレ研究所）

16:40 閉会

※プログラムは一部変更する場合がありますのでご了承ください。